

➤ 1日 金曜

コロサイ



1:1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロと、兄弟テモテから、
1:2 コロサイにいる聖徒たち、キリストにある忠実な兄弟たちへ。私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:3 私たちは、あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。

1:4 キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛について聞いたからです。

1:5 それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のこばによって聞きました。

1:6 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。

1:7 そういうものとして、あなたがたは私たちの同労のしもべ、愛するエパfrasから福音を学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、

1:8 御霊によるあなたがたの愛を、私たちに知らせてくれた人です。

コロサイ人への手紙は、パウロがその教会の信仰を守るためにと書かれたものです。そのため教会の頭であるキリストの、神としての卓越性が強調されています。コロサイの教会はおそらくエパfrasの働きによって開拓された群れで、パウロはそこに訪れたことはないようですが、その人々を愛して「祈るときにいつも」と、常に祈りのうちに覚えていたようです。神の働きは、組織や計画に先立って、人

を愛することから、そして祈りから始まるのだと教えられます。

コロサイ教会の人々の「信仰と...愛」はパウロの耳にまで届くほどであったようです。そしてその根底をなすものは「天に備えられている望み」であり、「福音」の「成長」であるということです。つまり福音についてよく知り、そして福音に従って行動するということでしょう。

このように私たちクリスチャンの愛の行いは、義務として頑張る達成するよりも、むしろ「望み」を抱いて、わくわくするような喜びの思いでなされるものなのです。（もちろん旧約の預言者や、殉教者のように苦しみの中で、主に従うという場合もあるでしょうが、そのような時でさえ、そこには永遠の希望があり、主の愛を担う深い喜びがあったようです。）

ですから私たちも、「天に備えられている」ものをもっと見せていただきましょう。また教えていただきましょう。覚えましょう。福音の確かさと、イエス様の愛を体験させていただきます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

